

香川における自転車を活用した『交通まちづくり』に関する提言書（イメージ）

1. 背景 ～香川における自転車をめぐる現状と課題～

自転車が利用しやすい環境・自転車利用の多さ

- ・平坦な地形、少ない降雨、温暖な気候
(傾斜度3%未満の土地面積構成比20%は全国1.5倍、平均降水量の少ない県全国3位)
- ・香川県の自転車保有率は全国6位

課題1:都市交通体系における位置づけが不十分

- ・都市交通体系における人-公共交通-自転車-車の位置づけと優先順位が不明確

課題2:自転車・歩行者空間が不十分

- ・これまでの自動車中心の道路整備による自転車・歩行者空間の不足
- ・自転車・歩行者が混在する空間が大半
- ・自転車・歩行者道ネットワークの観点不足

課題3:自転車事故の増加

- ・自転車対歩行者事故件数が近年急増
(10年間で香川県で1.5倍、高松市で1.8倍増)
- ・自転車乗用中の死傷者数は全国ワースト1位
(高松市の自転車事故は全国ワースト1位)

課題4:自転車利用のマナーが悪い

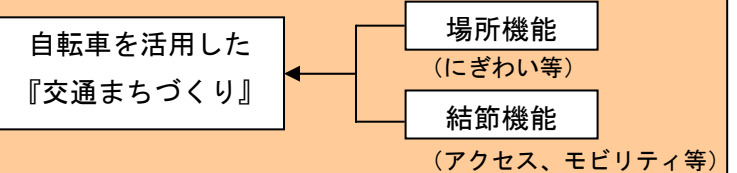
- ・無謀な運転(並進走行、無灯火、信号無視など)
- ・利用ルールが守られず、混在する交通
- ・歩道上、商店街周辺の迷惑駐輪

なぜ今自転車か？

- ・自転車は環境にやさしい交通手段
- ・自転車は渋滞知らず
- ・自転車利用によって健康維持・増進
- ・公共交通機関と組み合わせると広域移動も便利

自転車を都市交通手段として有効に活用し、安全で快適な空間を確保した、人と環境にやさしく楽しい『交通まちづくり』

まちづくりに必要な2つの機能(場所機能・結節機能)を自転車によって結合可能



2. 自転車を活用した交通まちづくりの実現に向けた3つの柱～

都市交通体系における自転車の位置づけ 優先順位⇒人-公共交通-自転車-車

I. 安全・快適な歩行者・自転車空間が確保されたまち

- ・歩行者の安全性確保が最優先の考えのもと、自転車や歩行者の利用実態等を踏まえつつ、これからの道路整備に反映或いは既存ストックを有効活用しながら、歩行者と自転車走行空間の分離など歩行者・自転車が安心して通行できる道路空間を確保。

II. 自転車が使いやすいまち

- ・自転車道ネットワークの構築や、公共交通との連携により、自転車を広域的にも活用しやすい環境を確保。
- ・地域独自の運用(レンタサイクルの活用、自転車マップなど)により、ハード・ソフト一体となった総合的な自転車利用を促進。

III. 自転車利用マナーNO1のまち

- ・あらゆる年齢層を対象に、自転車の通行ルールや駐輪マナーなどの周知・啓発を図る。

3. 具体的な6つの取り組み(案)

①歩行者・自転車の安全・快適な空間の確保

②商店街(アーケード街)の自転車対策による魅力向上

③路上駐輪の対策

④ルール・マナーの徹底

⑤さらなる自転車利用の促進

⑥重点対策地区の設定